研究だより

入新井第五小学校
研究推進委員会
Ｒ４年６月２日（木）
第　２　号

代表委員会「あいさつウイークの計画を立てよう」について話合い活動を行いました。

６月２日（木）に第２回校内研究授業（代表委員会）を行いました。議題は、「あいさつウィークの計画を立てよう」です。代表委員会の児童は、4～6 年生の 18 名で構成されていて、学校をより良くするため、代表委員会のめあて「仲良く平和に過ごせる学校」を達成するための取組を計画し、学校の中心となって活動をしています。

【事前】議題を決めるために、各学級へ「今すぐ」「全校児童で」取り組みたいことはないかを投げかけたところ、全校児童からは「挨拶のできる学校という伝統を守りたい。」「他の学年にも自分から挨拶ができるようになりたい。」という意見が多く、代表委員会では挨拶を全校で取り組む必要性があると考え、今回の議題に至りました。

【本時】今回の学級会では、「①入五小の挨拶の課題」「②やり方」の２点について話し合いをしました。

話し合うこと①では、今の入五小の挨拶には、「笑顔」「だれにでも」「目を見る」「自分から」「元気」の５つの課題があることについて確認しました。話し合うこと②では、代表委員会としてどのように活動を工夫して、①で挙がった５つの課題を解決していけるかについて話し合いました。やる活動は、「カード、バッチ」と「あいうえお作文」の２つです。「カード、バッチ」では、「ポイントが増えるとバッチがゴージャスになる」や、「代表委員会が正門に立って、カードにシールを貼ってあげる」など、どうしたら全校のみんなが楽しく挨拶ができるようになるかを試行錯誤しながら考えていました。話合いが進んでいくと、「カードやバッチの取組が終わってしまったら、また今のように挨拶が少なくなってしまうかもしれない。」と、実際の場面や状況を想起でき、心配意見を言う児童も出てきました。今回の研究授業では、児童一人一人が、代表委員会の一員という自覚や責任をもち、より良い学校にするために自分たちにできることを考えることができました。今回決まったことは代表委員会で役割分担し、当日の「あいさつウィーク」に向けて着々と準備を進めています。この取組を機に、入五小のみんなが挨拶で繋がり合い、挨拶で溢れる入五小になることと同時に、代表委員会の児童が、達成感ややりがいを感じられるような経験にしてほしいと思います。

委員会活動では、学校全体の生活を共に楽しく豊かにするための活動を分担して行います。また、高学年の全児童による活動を通して、異年齢の児童の人間関係を形成したり、社会参画の態度を育てたりするという教育的な意義があります。「学校の一員として役に立ちたい」「学校のためにこんな活動がしたい」という、児童の発意・発想が生かされ、創意工夫ができることも委員会活動の特徴です。児童は『学校』という社会の中で、生活における諸問題を自分たちで発見し、協働して解決していきます。そして様々な仲間との関わり合いの中で、人間関係を築いていきます。教師側は児童の活動や思いを価値づけ、自己有用感や達成感を味わうことができるように指導しています。他の委員会も同様、高学年の全児童が学校の中心として活躍していける場をたくさんつくっていきたいと思います。

・講話

◎小グループでの話し合いの際に、教師や司会グループが周っている所がよい。特に司会グループが自主的に周ることで、グループでの話し合いが活性化していた。

◎S「挨拶ウィークだけで終わってしまうのは良くないと思う」という発言に対し、教師が「この思いについて、どう思う？」と聞いたところが良かった。助言のタイミングと内容がとてもよかった。

◎児童から、「挨拶がよくできている人にバッジをあげたり、グレードアップさせたりしていくのは、競走になってしまう。気持ちの良い挨拶をすることは、競走することではないのではないか。」という意見が出てきて、とても良かった。この意見より、どのような取り組みをすれば、挨拶を広めていけるのかという話し合いにシフトしたのがとてもよかった。

▲提案理由の「気持ちの良い挨拶」とはどういうものなのか、「入五の目指す挨拶とは何か」を児童間で明確にする必要がある。そうすれば、気持ちの良い挨拶についての共通認識を基に話し合うことができる。

▲委員会同士でコラボするような取り組みが意見として出ればよかった。「放送委員会は放送で呼びかける」、「掲示委員会はポスターを貼ることで呼びかける」など。そうすれば、代表委員会だけでなく、全校児童で行う取り組みというのが出る。この意見については、教師が「こんな方法もあるよ」と話し合う前に紹介する必要がある。

▲6 年生が毎回司会をやっている。

→分担は毎回同じであると、力が付かないので変えた方が良い。学級会は輪番制でやっているので、それに倣い、1 組グループ・2 組グループなどと分けるなどすると、児童が慣れていくことができる。

▲提案理由を読むだけでなく、教師が「ここは大切」というところに線を引くなどの助言をするべきであった。

授業者の有浦先生と原先生にインタビューしました！

今回の研究授業を通して、児童との関係づくりが難しいと思いました。担任は児童との関係ができているので、普段の様子から話合いの際に的確な助言がしやすいです。しかし、普段関わる機会が少ない委員会の児童が納得できるような助言をするのが難しかったです。また、意見がたくさん出てまとまらないときにどのような手立てをすればよいか学ぶことができました。

児童は、今回の話合いで決まった「あいさつウィーク」での実践に向けて着々と準備を進めています。自分たちで話し合った活動に向けて意欲的に準備ができるように、助言をしていきたいです。入新井第五小学校が気持ちの良いあいさつであふれる学校になれるように期待しています。